

図書館の窓から

長岡市立中央図書館館報 No.170



2020
秋号

『まんぷく長屋 食欲文学傑作選』
池波 正太郎／ほか著 縄田 一男／編
新潮社



池波正太郎、筒井康隆など、名だたる作家の「食欲」にまつわる傑作が七編収められています。特に火坂雅志の「羊羹合戦」は、出雲崎の菓子匠が主君上杉景勝のために、豊臣秀吉に献上する羊羹を命がけで作るといふ話。越後の風土を織り込んだ羊羹とは、いったいどんなものだったのでしょうか。

『タルト・タタンの夢』

近藤 史恵／著 東京創元社



小さなフランス料理店パ・マル。気取らないフランスの家庭料理を楽しめるその店には、今日も様々なお客がやってきます。悩みがある客、問題を抱えた客、変わった客。そんな客たちが巻き起こす問題を、シェフが料理で華麗に解決?! ミステリーとフランス料理を堪能できる短編集です。

食欲の秋



野菜にくだもの、そしてお米—おいしい旬の食材が豊富な季節になりました。この「実りの秋」を本と一緒に楽しんでみませんか。

『天ぷらにソースをかけますか？
ニッポン食文化の境界線』
野瀬 泰申／著 新潮社



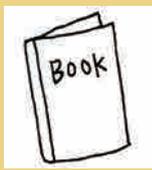
新聞記者である著者は、赴任先の大阪で出会った“天ぷらにソース”をきっかけに、食の地域性を探るべく新聞公式サイトでネット投票を実施します。続々と届くコメントから見てきたのは、地域に根づいた食文化の豊かさと色濃さでした。

『世界のスープ図鑑 独自の組み合わせが楽しいご当地レシピ 317』

佐藤 政人／著 誠文堂新光社



スープは、バランス良く野菜やお肉の栄養が摂れる手軽な調理法です。世界に目を向けると思いもよらない食材を使ったものやその国の伝統文化を感じられるスープがたくさん存在します。インスタ映えするような見た目も美しいスープは、眺めているだけでも満足します。



本を大切にしよう！

長岡市立図書館全館で、年間約160万点の本や視聴覚資料を貸出しています。しかし、何十年もの長い期間、利用され続けるものもあれば、わずか数週間で汚損・破損により貸出できなくなるものもあります。

図書館資料は、長岡市民の大切な共有財産です。多くの市民の方が長く、気持ちよく利用できるように、大切に扱いましょう！

一人ひとりがマナーを守って、気持ちよく利用しましょう♪

- 読書するときは、飲み物・食べ物に気を配りましょう。
- 雨天・降雪時に来館される場合は、借りた本・返す本が濡れないようご注意ください。
- 小さいお子さんやペットがいらっしゃる場合、保管場所に気を付けましょう。
- 本への書き込み・切り抜きは、絶対にやめましょう。

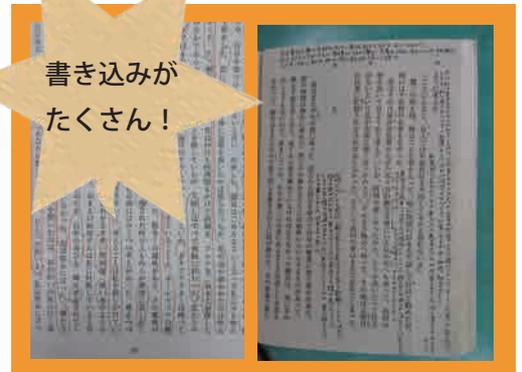
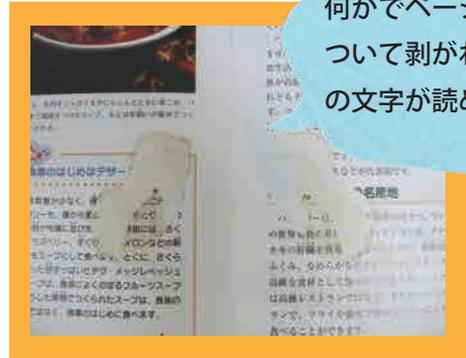
資料はコピーが可能です。カウンターにお問い合わせください。
※コピーできない場合もあります。



何かでページがくっついて剥がれ、一部の文字が読めない！

水濡れでしわくちゃ！

書き込みがたくさん！



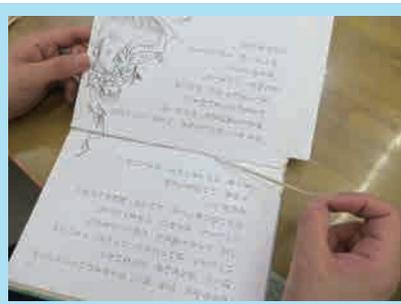
本の裏表紙や奥付に、自分が読んだ印が！

市販のテープで補修すると、テープが変色することがあります！



図書館では、このように本の修理をしています！
汚れや傷みがあった場合はカウンター職員までお声がけください。

表面の汚れは、クリーニングを行い、きれいにします。



破れた部分は、専用のテープで補修します。

外れたページは、専用のボンドで貼付けます。



長岡市史編さん事業の継承を主としていた文書資料室の活動は、中越地震の前後で大きく変化しました。その代表例が、市民ボランティアと協働で行う資料整理の取り組みです。

長岡市資料整理ボランティアは、平成 17 年 10 月に 29 人で活動を開始しました。現在の登録者数は 60 人。15 年間の活動回数は 246 回、参加者数はのべ 2,929 人にのびります。当初から取り組む被災歴史資料の目録作成に加え、災害や復興に関する記録の整理も行っています。また、新潟歴史資料救済ネットワーク（事務局：新潟大学人文学部内）や十日町市・上越市の古文書整理ボランティアと交流を図り、東日本大震災・熊本地震の被災地などへも経験を発信してきました。

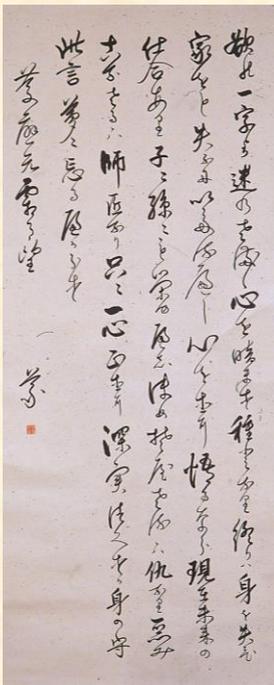
今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため上半期の活動を中止しましたが、9 月から「新しい生活様式」に留意して再開しました。相次ぐ自然災害の発生、そして、コロナ禍にあっても、市民と職員が一緒になって資料整理作業を真剣に、かつ楽しみながら行っています。

長岡市資料整理ボランティアと文書資料室は、15 年間の積み重ねを財産に、郷土長岡の歴史資料を後世に伝えていくための活動をこれからも続けていきます。活動に興味がある方は、ぜひ文書資料室までご連絡ください。
(田中洋史)



▲活動開始当初の長岡市資料整理ボランティア
(平成 17 年 10 月 14 日、於互尊文庫)
15 年間の活動のあゆみは、国立国会図書館のポータルサイト「東日本大震災アーカイブ ひなぎく」(<https://kn.ndl.go.jp>)でも紹介します
(10 月下旬公開予定)。

中央図書館所蔵資料紹介 No.166 河井継之助 書



此言 夢と忘るへからす 慶応元霜月望 義
(二八六五) (十一月) (満月二十五日)

欲をすてよ

～欲によってあれこれ迷うことは心を暗くする種である。しまいに我が身を失い、家までも失うはめになるだろう。心を直に悟るなら現在未来は幸せになる。自分を褒める人よりけなす人の方が師匠と思え。一心正直に真実を尽すことが己を守ることになる。この言葉決して忘れてはならない。～

文久 2 年(1862)に幕府領から長岡領へと変わった刈羽郡山中村では、重くなった年貢に対する不満と庄屋の家督相続争いなど相次いでトラブルが発生。「山中村騒動」と呼ばれ、継之助が事態を収めるために尽力しました。紹介する書は、その際村民に諭した言葉といわれ、仮名交じりの比較的読みやすい文字で表されています。

まっすぐ素直な心でござらずに生きよ、という継之助の訓えは古びることなく、私たちにも語りかけてくるようです。

(小熊よしみ)

◇河井継之助(名は秋義、号は蒼龍窟 1827～68)。長岡藩士河井代右衛門と貞の子。安政 6 年(1859)備中松山藩の山田方谷に学び長岡藩において藩政改革を実行。慶応 4 年(1868)北越戊辰戦争で軍事総督として戦い、被弾した傷により会津塩沢村で没す。

☆10 月 1 日(木)～11 月 1 日(日)中央図書館エントランスギャラリーで展示します。

展覧会・講演会

新収蔵資料展

～長岡市立図書館の父 互尊翁が遺した著作を中心に～

中央図書館では、郷土資料の積極的な収集と公開に努めています。本展では、近年の新収蔵資料にスポットを当て、一堂にまとめて展示します。書画・古地図・書簡・写真など、幅広いジャンルに及ぶ多彩なコレクションをお楽しみください。

なかでも、昨年度、日本互尊社から寄贈された資料のうち、図書館が管理する書籍や資料は初公開となります。長岡市の図書館の父、野本恭八郎（互尊翁）を知る貴重な資料群をお見逃しなくご覧ください。

●会期：12月4日（金）～

12月16日（水）

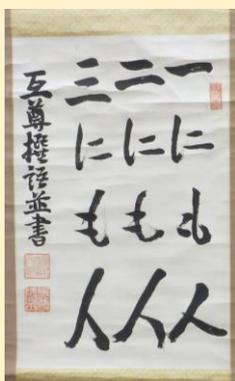
月曜休館

●時間：9：30～17：00

●会場：中央図書館 2階

美術センター

●入場無料



野本恭八郎書



「北越商工便覧」から

上記関連講演会

「野本恭八郎の図書館理念と互尊文庫
～如是蔵博物館収蔵資料をひもといて～」

●日時：12月5日（土）14：00～15：30

●会場：中央図書館 2階 講堂

●講師：田中洋史 中央図書館 文書資料室長

●申込み等の詳細は市政だよりや図書館ホームページでお知らせします。

そっだ、図書館に聞いてみよう！ レファレンス・サービス(調べもの相談)

図書館では図書館の本や雑誌を使って、調べものの解決に役立つ本や統計データを探すお手伝いをしています。

図書館に寄せられた相談事例を下記にご紹介します。

Q 三島郡日吉村鳥越の宮大工である長谷川熊平について知りたい。

長谷川熊平は、東京築地の本願寺別院建立に際し指揮監督を任せられ、また、三条市の浄土真宗大谷派三条別院や長岡市の金峯神社、弥彦村の弥彦神社の再建を担当するなど、全国的に活躍した宮大工の技術集団の棟梁です。

県内でも多くの神社仏閣の建立に関わっているほか、小坂定吉や小林平次郎といった弟子の育成にも力を入れていたことなどがわかる資料をご案内しました。

紹介した本

『日吉村誌』

粉山 一雄／編纂主任 昭和31年 日吉村役場

『郷土長岡を創った人びと』

長岡市／編集 平成21年 長岡市

『長岡ふるさと大百科 決定版』

平成17年 郷土出版社

本を読んだら手を洗おう

新型コロナウイルス感染症の収束まで、長期化が見込まれています。

皆様には、マスク着用、咳エチケットや手洗いなど感染予防にご協力をお願いします。

(ポスター提供:株式会社カーリル)

